

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

小14 町田市立南第四小学校

学力調査等の状況	
R5年度の「全国学力・学習状況調査」では、算数・国語ともに、都や全国を下回り、十分な成果を上げることができなかった。算数は、どの領域も問題も都や全国を下回った。	

見えてきた課題	
どの領域も問題も都や全国を下回ったことから、大きな課題となった。7月までの単元テストの成績一覧表を作成し、個人面談で保護者に個々の課題を周知するとともに、学校全体で基礎計算の問題に取り組んでいく「さんすうがんばろうプリント」の取り組みをする。国語「話すこと・聞くこと」では、単元を通した指導の計画を評価まで丁寧に行う。「書くこと」では、書く機会そのものを各教科でしっかりと確保していく。	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	大型提示装置やChromebook等を活用し、児童の考えを共有する場面や共同作業に取り組む活動を設ける。
見通しをもたせる導入	児童が主体的に学ぶことができる動機づけをするため、導入を工夫する。
価値ある対話の共有	児童が自分たちで考えたことを文章等でまとめたり、解決したりする場面を設定する。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を高めるために、協働的、探究学習を実施する。 音読をする機会を増やす。量を増やすことで、語のまとまりや文章全体の構成や内容の大体を意識させる。 集団での思考の場を設定し、多様な考えに気づき、学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なことを表す言葉を増やし、日常会話や話し合い活動で使えるようにする。 物語文では、音読を重視するとともに、時、場所、登場人物を捉えて、全体を読めるようにする。 説明文で「問い」と「答え」の文を自分で見付けることができるようにし、事柄の順序を考えながら、内容の大体を読めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動を通して、話す事柄の順序を考え、相手に伝わるように話すことができるようにする。 物語文では、音読を重視するとともに、全体を読んだ後、細部を読んで因果関係をとらえて、作品全体をとらえるようにする。 ICT端末のジャムボードを活用し、意見を共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動を通して様々な意見を聞き、自分の考えや思いを深める学習を充実させる。 物語文では、音読を重視したり工夫したりするとともに、文章全体と細部を比べながら、主題をとらえることができるようにする。 ICT端末のジャムボードを活用して意見を共有し、意見や感想をもてるようにする。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な見方、考え方を身に付けさせるために、協働的、探究学習を実施する。 様々なグラフや資料を用いて情報を読み取らせ、グループやペア学習の場面を多く設けることで考えを広げる。 学んだ知識や資料を活用して、地理的・社会的な視点で課題を捉える力を養う。 視聴覚教材を活用し、児童自らが資料を取得し、意見を交流できる活動を取り入れる。 スライドやドキュメントを使い、調べたことをまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> (中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) 生活科を通して、自分の身の回りの環境に興味をもち考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことや考えたことをノートに書いたり、相手に伝えたりして、身近な事象を理解する。 調べ学習やペア学習を通して、知識を深める力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の課題に様々な視点から考えるために、発問や導入に工夫をし、主体的に問題解決しようとする意識を養う。 図や表を用いて、興味や疑問、考えをもって交流する場を設け、学びを深めたり広げたりする。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な見方、考え方を身に付けさせ、数学的活用能力を高めるために協働的、探究的学習を実施する。 学年ごとに教材を作成し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 習熟度別グループで授業を展開し、理解度に応じた数学的思考力を育てる。 集団討論の場を設定し、多様な考えに気づき、学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容の系統性、単元のねらい、児童の実態を踏まえた指導計画の見直しをする。 一人一人の学びの充実を図り、主体的な学び合いを促す指導の工夫をする。 「がんばろうプリント」の実施状況から、内容の定着度や苦手分野を確認・分析し、学年で共有して補充学習を授業に組み込む。 習熟度別学習、navima、Qubena等の学習コンテンツを活用し基礎的な内容の習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「がんばろうプリント」の内容をより基礎の内容に絞り、全領域で復習できるように再編集し、取り組ませた。その後の定着を診断シート等で確認・分析し、学年共有し、苦手分野の補充を授業に組み込む。 習熟度別学習、navima、Qubenaでのドリル学習を通し、基礎的な内容の習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「がんばろうプリント」の内容をより基礎の内容に絞り、全領域で復習できるように再編集し、取り組ませた。その後の定着を診断シート等で確認・分析し、学年共有し、苦手分野の補充を授業に組み込む。 習熟度別学習、navima、Qubenaでのドリル学習を通し、基礎的な内容の習熟を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 科学的な見方、考え方を身に付けさせるために、協働的、探究学習を実施する。 体験的活動やICTの活用を通した導入により自然の事物・現象から問題を見出し、知的好奇心や探究心を高める。 観察や実験結果を原因や新たな疑問などに関係付ける活動を通して、科学的な思考力・表現力を高める。 問題解決の過程を振り返る時間を確保し、学んだことを生かして深く追及したり、ものづくりをしたりする活動を通して、理科の有用性に気付かせ主体的に学ぶ態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物栽培や生き物飼育などの継続的な観察を行い、理科学的な見方・考え方の素地を養う。 観察からの気づきを引き出して交流させ、知的好奇心を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の自然事象から、差異点や共通点を明らかにさせたり、変化と要因を結びつけたりする活動を多く取り入れ、比較や関係付けという科学的な見方・考え方の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の際に、予想や仮説をグループで意見交流をしながら追及したり、結果を基に考察したりする活動を行う。 多面的で豊かな見方・考え方を育成するよう、普段から「なぜそうだったのか」考えるよう、指導する。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> 生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立の基礎を養うために、協働的、探究学習を実施する。 具体的な活動を多く設定し、知的好奇心や探究心を高める。 自分と身近な人々、社会及び自然の事象に対する「問い」をもたせ、問いを解決できる学習計画を児童と共に考える。 自分が身近な人々や、社会、自然に対し主体的に関わっていくことができる活動を取り入れ、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に身に付けさせる力を意識して、それを育ませるための分かりやすい資料提示(写真や動画など)を用いて視覚的な導入を学年で工夫する。 活動の内容を明確にして、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 年間を通じて、見通しをもった単元指導計画を立て、ICTを効果的に活用することにより、考えを広げたりまとめたりすることができるよう、児童一人一人の考えが深められるようにする。 家庭や地域との関わりを通して、地域に興味・関心を持ち、様々な相手に自分の思いや願いを表現できる場の設定を工夫する。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な見方・考え方を身に付け、音楽表現へつなげる力を培うため、協働的、探究学習を実施する。 児童が自ら課題を見つけ、主体的に学ぶことができるよう、導入や振り返りを工夫する。 対話的な学びを通して児童の学びを広げ深めるため、ペアやグループ活動を設定する。 児童が既得の知識や技能を生かしながら学びを深められるよう、系統的な学習指導計画や評価計画を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 身体表現を取り入れた音楽活動を行うことで、曲想と音楽を特徴付けている要素との関わりに気付かせる。 歌唱、鑑賞、器楽、音楽づくりの各領域を関連付け指導することで知識を習得しやすくさせる。 1単位時間や単元ごとで学びの振り返ることで学びの実感をもたせ、次の学年につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用することで、単元の見通しや課題をもたせ学びの積み重ねを実感させる。 ペアやグループなどの共同学習を設定し、互いの表現の良さを認め合い学びを広げていく。 単元の構成を歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりの各領域で計画的に配置し、学習内容の理解がより深まるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用として、各グループの考えや工夫を即時的に全体で共有し、学びを深める。 単元の導入では、全体の見通しがもてるよう視覚的に把握できるよう板書やワークシートを工夫する。 合唱や合奏で協働学習を設定し、互いの表現の良さを認め合い学びを深めていく。
図画工作科	<ul style="list-style-type: none"> 造形的な見方・考え方を身に付け、表現する力を培うために、協働的、探究学習を実施する。 積極的に自己表現できるよう演習し材料の魅力、活動への関心や意欲につなげる。 友人や身近な社会の関わりにより、作り出す喜びを味わわせる。 個に応じた指導を充実させ、自分の思いや考えをしっかりとった児童の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のつくり上げた作品を展示する場を設け、つくり出す喜びを味わわせるようにする。 見通しをもって活動することができるよう、題材の導入の説明的に行う。 児童の知識や技能に応じて、机間指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のつくり上げた作品を発表する場を設け、対話的な学びを進め、つくり出す喜びを味わわせるようにする。 見通しをもって活動することができるよう、ワークシートを活用し、制作イメージを広げられるようにする。 題材に必要な知識を、児童がいつも確認できるように掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な作品を鑑賞する機会を設け、対話的な学びを進め、つくり出す喜びを味わわせるようにする。 見通しをもって活動することができるよう、ワークシートを活用し、より深く制作イメージを広げられるようにする。 題材に必要な知識を、児童がいつも確認できるように掲示する。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 実践的、体験的な活動を通して、生活をよりよくしようとする工夫する資質、能力を育成する。 家族や家庭、衣食住、環境などについて、日常生活に必要な基礎的理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付けるために家庭での調理の宿題や学校での裁縫などの実習の機会を設定する。 児童一人一人が、主体的に学習に取り組めるよう、板書やワークシートを工夫し、課題を解決する力を養う。 			<ul style="list-style-type: none"> 実践したことを家庭で生かす工夫をする姿勢を育て、実際に行動に移す能力を広げる。 自分のイメージしたものをものづくりを通して実際に作り上げることによって必要な基礎、基本の機能を身に付ける。 家庭と地域とのつながりを意識できるような授業の展開を行い、自分自身の家庭での立場や家族への思いを知る。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題、流れ、児童の発表内容、学習のまとめを記録するボードやICTを活用してそれを視覚化し、単元を通しての児童の学習を蓄積する。 運動を通して、気付いたことや学んだことを共有する時間(シェアリング)を設け、すすんで運動し、共に分かち合う心を育む。 学習カードに課題や学んだこと、友達からのアドバイスを記入させ、指導と評価の一体化を図る。 グループ学習を行い、互いのよい動きを見付け、伝え合うことで、認め合う意識をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT端末で自分や友達の動きを撮影し、振り返ることができるようにする。 みんなで一緒に運動遊びを楽しむためには工夫が必要だということに気付くようにする。 みんなで楽しく遊べる場や遊び方を工夫したり、伝え合ったりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT端末に各自が見付けた動きのポイントや仲間のよい動きなどを入力するなどして協働的な学びができるようにする。 友達が何について困っているかが分かり、友達と一緒に活動することができるようにする。 友達のよい動きを見付け、伝えたり、友達が抱える課題について一緒に悩んだりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT端末に、各自が記録を入力し、自己の変容を的確に把握するなどICTを積極的に活用する。 互いの技能を高めるために友達の課題を知り、よりよくする方法を伝え合おうとする思いをもてるようにする。 友達の運動を見て、よりよくする方法と一緒に考え、伝え合っている。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> 外国語科を通じた異文化への柔軟な見方、考え方を身に付けさせるために、協働的、探究学習を実施する。 高学年では、書くこと・読むことを取り入れ、毎時間繰り返すことで授業を実践する。 児童同士や教員とコミュニケーションをとる場を設定し、コミュニケーション能力を育てる。 			<ul style="list-style-type: none"> 書くこと、読むことについての技能を高めるために、毎時間学習を積み重ねられるような工夫をする。 児童同士や教員、ALTとコミュニケーションをとる場を設定し、コミュニケーション能力を育てる。 ICTを利用し、言語だけでなく視覚でも意味を捉えられるようにする。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○思いやりの心を育てる人権尊重の教育を推進し、偏見や差別をなくし、社会の一員としての自覚をもつ子を育てる。 ・話し合いや場面演技など、自分の考えを伝え合う活動を行い、考えを広げる。 ・ICTを活用し、児童の考えを伝えやすくすることで、考えを深める。 ・学級の実態に応じた教材の選択をし、学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な資料提示、道徳的価値理解を深めるための発問の工夫を行う。 ・ねらいとする道徳的価値に照らして、自己の見方、考え方を振り返らせることにより、道徳的実践力に結び付けられるようにする。 ・多面的・多角的に考え、伝え、考えをより深める手段として、ICTを活用する。 ・ペアで考えを伝え合い、全体で考えを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な資料提示、道徳的価値理解を深めるための発問の工夫を行う。 ・ねらいとする道徳的価値に照らして、自己の見方、考え方を振り返らせることにより、道徳的実践力に結び付けられるようにする。 ・多面的・多角的に考え、伝え、考えをより深める手段として、ICTを活用する。 ・少人数での意見交換をし、全体で考えを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な資料提示、道徳的価値理解を深めるための発問の工夫を行う。 ・ねらいとする道徳的価値に照らして、自己の見方、考え方を振り返らせることにより、道徳的実践力に結び付けられるようにする。 ・多面的・多角的に考え、伝え、考えをより深める手段として、ICTを活用する。 ・友達との意見交流を通して自分の立場について明確にし、自分事として考えられるようにする。
外国語活動・英語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語活動を通じた異文化への柔軟な見方、考え方を身に付けさせるために、協働的、探究学習を実施する。 ・低学年から高学年まで授業の同じ流れを作り、学習内容の定着を促進する。 ・中学年では、話すこと・聞くことを中心にALTと共同して授業を実践する。 ・児童同士や教員とコミュニケーションをとる場を設定し、コミュニケーション能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士や教員とコミュニケーションをとる場を設定し、コミュニケーション能力を育てる。 ・外国語を聞くこと、話すことを中心にして、外国語に慣れ親しむようにする。 ・イラストや映像等、視覚的にも理解を促す手立てをするために、ICTや絵本等の教材を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士や教員とコミュニケーションをとる場を設定し、コミュニケーション能力を育てる。 ・外国語を聞くこと、話すことを中心にして、外国語に慣れ親しむとともに、外国語で表現したり、伝え合ったりする楽しさを感じられるようにする。 	
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に野菜を栽培する体験活動や給食指導、調理実習を通して食育の指導をし、バランスの良い食生活を心掛ける大切さや食物に対する感謝の気持ちを育てる。 ○探究課題解決のためにコンピューターや情報通信ネットワークを活用しプログラミング学習を取り入れたり、図書室や見つけ発見室を適切かつ有効に活用したりすることができる知識・技能を育成する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を「ふれる・つかむ」「追求する」「まとめる」「生かす・広げる」とし、それぞれの過程の中で、特に思考・判断に関わる活動において、児童の思考を活性化・深化させるような手立てを工夫する。 ・問題や疑問の発見につながるような体験活動を設定し、課題について考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年と同様に、学習過程を「ふれる・つかむ」「追求する」「まとめる」「生かす・広げる」とし、それぞれの過程の中で、特に思考・判断に関わる活動において、児童の思考を活性化・深化させるような手立てを工夫する。 ・課題づくりでは、課題を吟味する視点を設定することで、適切な課題を考えることができるようにする。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○委員会活動の充実を図り、集団の一員としての自らの役割を自覚し、主体的に活動しようとする実践的な態度を育てる。 ○学級会などの話し合い活動を通して集団活動の基礎基本を身に付け、お互いのよさを認め合い、みんなのために働く喜びが分かる子供を育てる。 ○全学年特別支援学級や異学年との交流活動を設定し、誰とでも仲良く協力して、豊かな生活を築く態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や活動の意図について説明し、目的をもって取り組むようにさせる。 ・話し合いの進め方に沿って、自分の意見を発表したり、他者の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりして、合意形成して実践することのよさを理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動等では、自分の役割を意識し、参加意識を高めるようにする。 ・理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れられたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図り、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動等では、児童に基本的な取組の方法を理解させ見通しをもたせる。 ・相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図り、実践すること。高い目標をもって粘り強く努力し、自他のよさを伸ばし合うようにする。